

I. 法 人 事 業 報 告

1. はじめに

社会福祉法人は公益事業である。の観点から社会的にはその法人の透明性や、公益性が求められつつあります。本法人に於いても常にこれを念頭に置き、今後の事業運営に供する必要があると考えています。

平成24年度の本法人の重点施策としては、春日園改修計画の推進とマンパワーの確保。更に人材育成のための方策や相談支援事業の習熟などを中心に取り組んできました。

それら事業も担当者の力に負うところが多く、また納得のいく推進状況と成果になったと考えるが、社会的には一層の法人力の強化と有益性が求められるのではないかと考えています。

また、24年10月に施行された障害者虐待防止法は、苦情解決とも関連し利用者処遇の根幹をなすものであると考えます。私達は援助者としての知識と技術を兼ね備え、正に福祉職としての地位向上を目指し奮励努力をしていかねばならないし、それが利用者に大きな安心を提供できる方策の一つでもあると考えています。

一方で、事業等の進捗状況において収支バランスの芳しくない事業も見られるが、支援費制度の格差が如実に表れている証拠ではないかと思うのです。法人としては人事考課も含め今後職員の身分保障に取り組んでいく必要があると改めて考えさせられた思いであり、このことは一層職員の専門性に期待するところであり、公共の負託にこたえられるよう努力していく必要があると考えるものです。

2. 運営の理念

「人としての夢と希望を持ち、個人の能力を最大限に発揮し、生きがいある人生を掴むように支援します。」を基本に

- ① 利用者と対等な関係に基づく支援
- ② 保護から自立へ向けた支援
- ③ 潜在能力を引き出し、発揮させる支援
- ④ 自由と責任の下、実態に応じた支援

以上のテーマに沿ったサービス提供・事業運営・職員育成を目指す。

3. 理事会開催状況

開 催 月 日	議 事	出席者数
平成24年 5月24日	・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第1号 ・平成23年度(福)埼玉のぞみの園事業報告(案)について ・ 同 決算報告(案)について ・春日園居住棟の建設計画について	9名 (書面0名)
9月29日	・育児・介護休業規則の制定(案)について ・定年退職者再雇用規定の改定(案)について ・規定の改定に伴う関係規則等の一部変更について ・国家資格取得に伴う受講等費用の補助制度(案)について ・春日園作業棟トイレの改修工事について	9名 (書面0名)

12月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度埼玉のぞみの園補正予算第2号(案)について ・山林伐採に係る入札結果の承認について ・任期満了に係る理事の選任(案)について 	9名 (書面0名)
平成25年 2月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第3号(案)について ・(福)埼玉のぞみの園経理規程の改定(案)について ・任期満了に伴う理事長の選任について 	9名 (書面1名)
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第4号(案)について ・平成25年度埼玉のぞみの園事業計画(案)について ・平成25年度埼玉のぞみの園収入支出予算(案)について ・春日園改築工事の推進について 	8名 (書面0名)

4. 評議員会開催状況

開催月日	議 事	出席者数
平成24年 5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第1号 ・平成23年度(福)埼玉のぞみの園事業報告(案)について ・ 同 決算報告(案)について ・春日園居住棟の建設計画について 	(21名中) 21名
9月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・育児・介護休業規則の制定(案)について ・定年退職者再雇用規定の改定(案)について ・規定の改定に伴う関係規則等の一部変更について ・国家資格取得に伴う受講等費用の補助制度(案)について ・春日園作業棟トイレの改修工事について 	19名
12月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度埼玉のぞみの園補正予算第2号(案)について ・山林伐採に係る入札結果の承認について ・任期満了に係る理事の選任(案)について 	19名
平成25年 2月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第3号(案)について ・(福)埼玉のぞみの園経理規程の改定(案)について ・任期満了に伴う役員の選任について 	19名
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園補正予算第4号(案)について ・平成25年度埼玉のぞみの園事業計画(案)について ・平成25年度埼玉のぞみの園収入支出予算(案)について ・春日園改築工事の推進について 	17名

5. 監査

(1) 監事会

平成24年5月21日(土)9時30分より、加藤・原口両監事により平成23年度社会福祉法人埼玉のぞみの園の事業及び決算について監査を受けた。

監事から、雑費が多いと感じた。振り分けられるものについては、分けて処理したほうが良いとの指摘を受けた。

法人が大変努力している様子がうかがえる。とのことだった。

(2) 県指導監査

①平成24年度埼玉県社会福祉施設等指導監査は9月20日実施された。今年度は社会福祉法人の運営状況と社会福祉施設の運営管理・支援及び財務管理の状況として春日園が対象となり実施した。指摘事項は以下の通り

ア、給与規程の改正は労基署にも届け出を行うこと

イ、深夜業に従事する者の6ヶ月以内に1回の健康検診実施すること

ウ、理事長専決以上の金額については、理事会の承認を得ること

以上12月13日、回答を提出した。

②平成25年2月20日障害福祉サービス事業所実地指導がのぞみの園ホームでおこなわれ、運営管理・支援の状況、指定基準及び報酬基準等の適合基準について指導がなされた。

改善報告書の提出は不要とのことだったが、重要事項説明書の苦情相談窓口にも市町村も併記するようにとの指摘だった。

6. 法人事業の実施状況

事業名	事業実施日	備考
地域福祉研修会	平成24年4月21日 平成24年9月12日	於深谷ビッグタートル (福)はぐくむ会と共同開催
法人レクリエーション 法人施設職員交歓会	平成24年6月9日 平成24年6月9日	於:深谷市ビックタートル 於:深谷グランドホテル
搜索訓練	平成24年6月15日	のぞみの利用者が行方不明になったと想定し、法人全体で搜索
施設見学会	平成24年7月2日 平成24年10月29日	1回目参加者:1名 2回目参加者:6名
危機管理研修	平成24年7月14日	於:第2春日園 あいおい損保 法人職員30名、近隣施設4名
人事考課者勉強会	平成24年11月5日	講師:正木 純社会保険労務士 参加者:9名
新春職員研修会	平成25年1月5日	講師:平塚市職員 又村あおい氏 「総合支援法について」
新入職員オリエンテーション	平成25年3月14日	平成25年度入社予定5名へ向けたオリエンテーション

7. 整備事項 (単位：千円)

事業名	事業総額	補助金額	備考
第2 軽トラック	892	510	日本財団
のぞみ送迎車両	1,682	1,000	埼玉県共同募金会
のぞみの園ホームAED	1,297	300	埼玉県共同募金会
合計	3,871	1,810	

8. 人事

(1) 理事

① 就任者

役名	氏名	就任年月日	資格等	備考
理事	茂呂 敏行	平成25年2月22日	経験者(元市職員)	

② 退任者

役名	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
理事	米澤 裕	平成11年2月22日	平成25年2月21日	

(2) 評議員

① 就任者

役名	氏名	就任年月日	資格等	備考
評議員	小口 一弘	平成24年4月1日	本部職員	
	加治 修一	同	第2家族会	

② 退任者

役名	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
	該当者なし			

(3) 職員人事(正規職員)

① 採用者

施設名	氏名	職種	採用年月日	備考
春日園	細井 美由起	支援員	平成24年4月 1日	
	内田 雅文	支援員	平成24年4月 1日	
	細井 隆一朗	看護師	平成24年4月 1日	非常勤から
	小川 正幸	調理員	平成25年2月16日	
第2春日園	鳥羽 沙織	支援員	平成25年2月16日	
つくし作業所	戸井田 幸枝	支援員	平成24年8月 1日	非常勤から

② 退職者

施設名	氏名	職種	退職年月日	備考
	山崎 勝	園長	平成25年 3月31日	定年退職、囑託
春日園	新知香実	支援員	平成24年10月26日	妊娠による
	中林 潤平	支援員	平成24年11月30日	体調不良
のぞみの園ホーム	松崎 春実	サビ管	平成24年 8月31日	自己都合
つくし作業所	久保 泰	支援員	平成24年 8月31日	自己都合

9. 施設職員給与等

24年度中の職員の施設別給与支給総額は、次のとおり。(正規職員3月末)

施設名	支給総額	平均本俸	平均年齢	平均勤続年数
春日園	54,734,292	220,115	41歳2ヶ月	6年9ヶ月
第2春日園	50,932,784	233,155	38歳10ヶ月	8年5ヶ月
たんぼぼ作業所	45,965,748	260,089	46歳10ヶ月	17年10ヶ月
つくし作業所	16,375,045	281,100	51歳6ヶ月	18年11ヶ月
のぞみ深谷営業所	25,266,989	258,380	37歳6ヶ月	15年4ヶ月
のぞみの園ホーム	12,321,581	288,500	53歳11ヶ月	15年3ヶ月

10. 各種手続き件数

社会保険	加入手続き	12件
	喪失手続き	10件
	その他	12件
雇用保険	加入手続き	13件
	喪失手続き	13件
	その他	4件
市町村県民税	異動届け	7件
医療機構	加入手続き	11件
	脱会・退職金請求手続き	9件
	その他	6件
共助会	加入手続き	11件
	脱会・共済金請求手続き	9件
	その他	10件
	慶弔手続き	9件
ソウエル	加入手続き	11件
	脱会手続き	10件
	その他	7件
	慶弔手続き	11件

11. その他

	開催数	内 容	構 成 員
施設長連絡会	12	各施設状況報告等	理事長・施設長・事業部長
庶務連絡会	12	本部からの連絡等	本部職員・各施設庶務担当

Ⅱ. 春日園の運営

1、総括

障害や年齢による身体機能の低下に伴い「排尿・口腔ケア・食事形態・外出・移動手段・洗濯・金銭管理・午後の活動内容・疾病の対応」等の生活環境の見直しを行い、新たな支援を実施した。特に、重度化・高齢化の状況が強く反映されていたのが、「嚥下状況」「移動手段」「午後の活動内容」であった。嚥下状況は、食事時のむせ等の原因により食事形態を増やし、安心して食事をしてもらえる工夫をおこなった。移動手段は、便利に生活できる福祉用具として、電動車椅子を紹介。3名の利用者が使用を開始した。午後の活動内容では、日中からベットに寝たきりにさせないために、各自が趣味を持ってもらえるよう、活動メニューの大幅な変更をおこない参加率30%増となった。更に、「身体機能にあった生活環境を」と考え、「春日園改修」という流れになったことは、利用者にとって「安心した生活」につながる大きな変化であった。今年度は、「個人の身体機能の差」を前年度よりも強く感じたが、今後も障害・年齢の状況にあったステージで、生活が出来るよう支援を充実させていきたい。

2、生活介護事業

前年度始めた洗濯支援が前年度 5 名から 10 名、機能訓練も 21 名から 27 名となった。また、電動車椅子 2 名増、通常車椅子 1 名増となった。更に、4 名が失禁対策用具を日中から使用した。これらは機能低下が入口となっているが、「日常生活を豊かにする用具・環境等の紹介」を分野別に実施したことで、支援や福祉用具に対して利用者の意識が変わった結果と考える。新しい支援として、足こぎ車椅子利用・口腔ケア・食事形態の種別増・靴洗・日中活動メニューの変更を実施した。支援量が増加したので、職員の増員をおこなった。今後は、不規則勤務の時間帯の検討がある。医務面は、排泄、皮膚疾患の通院が増加した。早期発見を目標とした中、毎年増加する皮膚疾患者の対策として、閉所日の清拭や起床時の衣類交換・ベットマットの消毒、清掃・フットケア等を新しい取り組みとしておこなった。また、定期体重測定を実施した。

作業では、平均工賃 6,087 円となった。ウエスでは機械を利用できる利用者増、漬物では工夫した商品開発、販売内容が課題として残った。

3、入所支援事業

安心して就寝できる環境として、夜間排泄対応の充実を実施した。尿瓶・トイレ誘導・オムツ等の利用者は前年度から 3 名増の 12 名になった。また、失禁シーツは前年度から 4 名増の 13 名が利用した。また、同時に清潔保持に努め、6 名の利用者が起床時の清拭・衣類交換等を開始した。更に、失禁シーツの定期交換を実施した。今後の課題として、起床や就寝時の支援量の増加、旅行中等の失禁対応が課題として残った。

4、短期入所・日中一時事業

契約人数 12 名・利用延べ日数 1248 名となった。1 日の平均利用人数は約 3.4 名(前年度 2 名)となった。利用の多くが長期期間となりほぼ満床状態が続いた。今後は緊急時の受入対応が課題である。

Ⅲ. 第2春日園の運営

1. 総括

今年度の作業収入は年間総収入59,141千円となり、前年度額の約10%増となる。工賃総支給額14,300千円・平均工賃27,343円/人(平均工賃は就労継続Bのみ)となった。今年度は繰越金があり、3月に期末賞与を支給することが出来たため、平均工賃増につながった。農耕班では、日本財団の助成により、軽トラックを配備することが出来たため、納品に活用出来るようになった。

2. 就労移行支援事業

4月に埼玉県立循環器・呼吸器病センターの野外清掃非常勤として、2名がパート雇用契約となり、1名が2カ月間の障害者委託訓練(OAビジネスコース)を受講した。その後、金融機関でトライアル雇用となったが、雇用契約にはいたらなかった。

3. 就労継続支援B型事業

①食品加工班・・・『はる工房』ではアンケート調査結果を生かしてメニューを工夫、通りから店舗が目立つよう、看板や掲示板を取り付けるなど工夫をしたが、多くの集客にはいたらなかった。製パン科ではパイ生地材料保管のため冷凍庫を購入し、冷凍パイ生地を使った新製品の開拓をおこなったが売上向上にいたらず、課題の残る結果となった。製めん科では麺の質の安定化を目指し、うどん粉の配分を変えることで安定した仕上がりになった。

②木工班・・・集塵庫の錆びのため、塗装工事をおこなった。また、釘打ち機の水蒸気が故障原因となるため、エアードライヤーを設置した。フィンガー科は、後半に間柱の注文が定期的に入り納期厳守で製造に取り組み、大きな成果を上げることができた。パレット科は、主要取引先からの注文が安定して、出荷が予定通りにできたため、在庫を多く抱えることが少なかった。

③軽作業班・・・釘科は袋詰め作業で新商品の依頼があり対応した。プレス科は安定した作業依頼により、安定して仕事を提供できた。毎月定期的に作業環境整備日を設けて機械の点検、整備をおこなっている。ウエス科は迅速に納品する事、定期的に材料の仕入れが確保できるよう頻繁に取引先への連絡をした。

④農耕班・・・トマトハウスの整備充実のため、湿気対策で大型換気扇(5台)の設置、防虫ネットの取り付けをおこなった。また、プチ耕運機の配備と、病害防除のための農薬自動ダクト内投入機の設置をおこなった。更に、ミツバチの投入による品質向上、近隣同業者との関係を密にし、相談・研修など、前年度にない取り組みをした。

4. その他

第2春日園建物の屋根からの雨漏りがみられ、建物の維持のために屋根の塗装工事をおこなった。法人本部棟、更衣室棟の屋根塗装も同時におこなった。食品加工品を作る作業場隔離のため、加工作業棟の間仕切り改修工事をおこなった。

IV.深谷市立たんぼぼ作業所

1. 運営管理

作業所は10数年来、利用者定員割れの状態が続いていたが、昨年度2名の新規利用者が加わり(退所1名)3月末現在で定員の50名在籍となった。利用者増員は職員の増員を図ることもできるわけで、それにより質の高いサービス提供にも繋がっていくと言える。職員については、年度途中で法人内他事業所への職員異動があったが、臨時職員の就業時間伸張と新規採用にて対応した。他、昼食介助に有償ボランティア(4名)を導入して支援体制を厚くした。

経年劣化する施設設備等への対策として、食堂等天井部の落下の危険性があった蛍光灯器具(16箇所)を深谷市により交換修理、また数箇所の破損があった作業棟南側の庇の屋根交換工事を作業所予算にて改修した。更に、15万キロ超を走行した軽自動車の中古の軽自動車と交換し、営農センター派遣事業の利用者送迎用としても活用を開始した。他に正門入口の劣化による歩道段差の解消等は職員作業によって対応した。年度後半から職員の「ヒヤリ・ハット・改善提案」を強化して、毎月1人1件以上の提出とし、「細やかな気づき」を実践した。

昨年度から開始したインフルエンザ予防接種は今年も32名の利用者(希望者)が実施。一定の成果をあげた。また、昨年も猛暑の夏であったが、利用者の水分補給に活用している給茶機の水道直結工事をおこない利便性を高めた。利用者が健康で通所されることが基本中の基本であり、そのために出来得る範囲での対応を心がけており、開所日における単純出勤率は92.4%を記録することができた。

2. 生活介護事業

今年度は11種類のプログラムを提供した他、QOLの向上を主眼に「手洗い」や「うがい」といった生活習慣の励行と習得を目指して、月4回の「衛生習慣」プログラムを取り入れた。また、ハンカチ等を持つ習慣のない利用者へは、ご家庭に協力を依頼して、「当たり前」の習慣付けを励行している。外部ボランティアの指導によるプログラムは「ダンス」「折り紙」等延べ25回を数え、地域との交流も継続でき、利用者の地域化の一助にもなっている。

生産活動では、もぎ取り、工芸を中心に活動を継続して、14パーセント増の収入と平均工賃5,225円の支払いとなった。しかし、年度末で工芸品の定期販売先が終了となるなど、マイナス要因が生じたため、今後収益性の高い作業の開拓が必要である。

3. 就労継続支援B型事業

本年度の作業収入は前年度比4%増の5,473千円で、工賃総額では10%増の2,954千円(月平均12,156円)に伸ばすことができた。しかし、今年度も埼玉県 averages 13,000円を超えるまでにはいたらなかった。これは、依然として内職作業が継続されていること、新規作業の導入に成功していないことが原因として考えられる。そんな中で、①「作業時間の見直しをおこないメリハリをつける」・②「工賃算出方法を変更し、より適正な工賃に近づける」などを実施して利用者・職員の意識改革を試み、少しずつではあるが上向きつつある。また、後半からは来年度が開設30周年の節目の年となることから、これを契機とした食品作業での新商品の開発に取り組み、何とか販売するまでにこぎつけた。内職等のマイナス要素の強い作業を中止する前に、プラス要素のある作業種を伸ばし作業域を拡大する方向性を探りつつある年度だった。

V. 妻沼つくし作業所

1. 総括

利用者定員について、就労継続支援B型の利用者は、14名とほぼ定員(15名)に近づいているが、生活介護の利用者は、10名と5名の欠員(定員15名)となってしまった。しかし、保護者の協力により、通院終了後は作業所へ出勤してもらう呼びかけをおこない出勤率向上に努めた。

毎月の商店会販売やめぬま祭りの出店等を実施して、地域との関わりを深めることができた。年間をとおし、数日間ある土曜の開所日には、作業所内レクレーションや地域公共施設への見学等を実施した。

2. 就労継続支援B型事業

軽作業(もぎ取り・再生作業・ウエス作業)は下降気味だった。ウエス作業は、1月から中止となってしまう。リサイクル回収作業(古紙関係・アルミ缶)は、順調に依頼があり増収に繋がった。

農作業は、農耕ボランティアの協力で、土地の有効活用に取り組むことが出来た。一方、生産について計画的な取り組みが足りず、数か月収穫のない月があり、今後の課題となった。

派遣事業(農耕派遣)は、今年度も契約をおこない実施することができた。また、販売関係は季節の野菜の販売をおこなうことができ、さらにスーパーの地場産コーナーへ納品し、ほぼ完売する事ができた。今後の課題は年間を通して野菜の提供が出来るようにするである。

自主生産の開拓は季節の小物を製作し、評判は上々で、売り上げもあげることができた。自動車販売店から、店内展示品の依頼が今年もあり、年3回納めることが出来た。また、熊谷市から熊谷市障害者作品展の参加賞品を受注し、300個を納品することが出来た。

3. 生活介護事業

○目標による実施内容の取り組み

毎月ごとに目標を立て、実施する事が出来た。また、施設内外を問わず、多くの行事に参加した。一番大きな目標だった熊谷市障害者作品展に今年も全員の作品を出展する事が出来た。

VI.生活支援サービスのぞみ深谷営業所の運営

1. 埼玉県障害児・者生活サポート事業

今年度は「利用について行政からの指導が厳しくなったこと」、「深谷市の利用者自己負担額の増額」、さらに「放課後等デイサービスで送迎加算を開始したこと」などにより、生活サポートの利用は減少した。生活サポート事業はあくまでも他の障害福祉サービス事業の補助的なものという位置付けが強くなってきている。しかし、生活サポートのニーズは高く、利用者にとり、必要なサービスであると考ええる。

①『外出援助』サービスについて

24年度から深谷市の自己負担金額が増額されたこと、生活サポートを利用した通院付添に規制がかかったことによる影響か、年間利用時間－32.0%、年間利用件数－19.1%であった。新規の利用は数件だった。

②『送迎』サービスについて

24年度からデイの送迎を生活サポートから放課後等デイの送迎加算に変更したことにより、年間利用時間－27.4%、年間利用件数－27.6%になった。相乗り乗車や定期的な通院について、生活サポートでの利用ができなくなった。送迎中に判断ミスによる小さなトラブルはあったが、大きな事故は今年度もなかった。

送迎サービスは福祉有償運送に位置付けられ、講習会における資格の取得が必須の条件であり、のぞみのスタッフは有資格者が大半を占める。

③『一時預かり』サービスについて

主に児童のデイサービス開始前や終了後に、一時預かりとして利用がある。送迎加算への変更によりデイサービスの利用が増加したため、長期休みの時期に利用件数が多くなり、年間利用件数は+0.2%であった。しかし、年間利用時間は－14.4%だった。

④『介護派遣』サービスについて

1名、職場へ同行し、ジョブコーチ的な役割でサービスをおこなった。家事援助は送迎と同様に規制が強くなり、居宅介護支援事業への切り替え、または利用の中止があった。年間利用時間は－39.2%、年間利用件数は－38.1%となった。

2. 児童発達支援及び放課後等デイサービス事業

23年度の1日の平均利用者数10名に対し、24年度の平均利用者数は16名となり6名増加した。23年度の年間売上高 15,461,965 万円に対し、24年度の年間売上高は、28,373,201 万円と184%増の売上アップとなった。飛躍的に数字を伸ばした要因は送迎加算サービスの導入と考えられる。このサービスにより低価格で送迎の利用が可能となり、実費負担の軽減や保護者の送迎負担を軽減できたことからデイサービスを利用しやすくなったと思われる。一方で、利用者個別支援プログラムの実施やスタッフの人材確保など課題が残る。

サービス提供中、擦り傷や切り傷等の怪我を負った利用者が数名、扉に指を挟み通院した利用者2名(レントゲン撮るが異常なし)、また職員においても3名が怪我をして、労災適応となり、安全対策に課題を残した。

3. 居宅介護事業

①身体介護

入浴支援が利用の多数を占め、夕方16:00以降の支援が多い。通常週1~3日の利用で、スタッフの負担軽減をはかりつつ、支援をおこなった。新規で利用希望があってもマンパワー不足でお断りしたケースがあった。

②家事援助

掃除の支援が主である。住環境を整えるため、多数のスタッフで支援をおこなったケースもあった。

4. 重度訪問介護

現在、利用者1名。多様なサービス内容のため、洗濯などの生活支援が主である。

5. 同行援護

一昨年、10月から視覚障害の利用者のガイドヘルプとして、視覚障害者を対象とするサービスとして始まった。本年の利用者は1名。長時間のガイドヘルプが多かった。

6. 移動支援事業

利用状況は、土曜日、祝日、放課後等デイの前後の時間に予約が集中しており、予約の形態も様々である。また、以前からの定期的な予約の対応や放課後等デイの人員配置により、新規の予約を受けられないことが多かった。年間利用時間は前年度比-15.2%、年間利用人数は前年度比-12.5%、年間売上高は前年度比-17.2%であった。

7. 相談支援事業

平成24年度は35名の方の計画相談を行なった。男女比にすると1.5:1となった。3月は障害福祉サービス受給者証が切れる月であるため、1月から3月にかけて計画相談の依頼が多かった。また、市町村によって相談支援事業への対応に差があり、深谷市は他の市町村と比べて対応が早い。モニタリング期間は、福祉サービスの変更や新規の方は、3ヶ月は毎月のモニタリングがあり、その後は6ヶ月毎となる。「就労継続支援B型の利用者が6ヶ月毎」、「施設入所者は1年毎」のモニタリングとなる。

Ⅶ. のぞみの園ホームの運営

1.入居者の状況

4月1日から男子1名が、とびたホームに入居され定員30名になった。10月17日夜、とびたホーム入居者1名が、洗濯物を干そうと立ち上がった時にバランスを崩し転倒。大腿骨骨折のため入院し、3月中旬に退院した。埼玉県障害者自立支援課に事故報告等の提出をおこなった。(現在は春日園の短期入所を利用してホームに戻るためのリハビリをしている。)

3月末では、第2春日園通所者27名、就労されている方が2名おりホーム生活の支援をおこなった。

2.生活サポートの補助金

ホーム生活の負担軽減を図るため、生活サポートを利用する入居者の補助を、規定に従い継続した。

3.世話人・支援員の配置等

4月に県への体制届提出をおこなったが、入居者の区分が5月に1名、11月に1名、3月に3名の区分変更により支援員の配置変更があり、再提出をおこなった。

4.防災

7月24日に深谷消防署において普通救命講習Ⅰを4ホーム14名の世話人・支援員が受けた。また、利用者の通報・避難・消火訓練を年2回おこなった。共同募金の補助をいただき4ホームにAEDを設置することができた。

5.修繕等

事業計画で予定していた固定の布団干し場を1・2号館に設置した。カスガホームの廊下とトイレの床が湿気のため傷み、張替をおこなった。他のホームでも電化器具の故障で修理や交換をおこなった。

6.ホーム会議・研修について

毎月一回のホーム会議をおこない、世話人と支援員の情報交換や意見交換をおこなった。また、意識向上を図るため、研修(下記参照)もおこなった。

(参加内容)

平成24年 6月 1日	指定障害福祉サービス事業所 集団指導
平成24年 7月11日	安全運転管理者等講習会
平成24年 7月14日	身体障害者施設のリスクマネジメント
平成24年 7月24日	普通救命講習会
平成24年10月23日、24日	甲種防火管理新規講習
平成25年 1月 5日	障害者総合支援法について
平成25年 2月26日	障害者虐待防止講演会